

今年度中の改訂を目指し議論

平成27年度第1回母子保健対策小委員会

- 日 時 平成27年10月1日（木） 午後4時～午後5時10分
- 場 所 鳥取大学医学部附属病院 第二中央診療棟3階 会議室4
- 出席者 12人
大野・汐田・前垣・坂本・玉川・岩佐各委員
県子育て応援課：池上課長、川島係長
県子ども発達支援課：福谷課長、田中係長
健対協事務局：岩垣係長、田中主任

議 事

1. 5歳児健康診査マニュアルについて

昨年までの小委員会において、①5歳児健診は会場での拘束時間が長いこと、②問診に発達障がい念頭に入れた項目を入れて欲しいことの2点要望があり、今年度、5歳児健診マニュアルの改訂版を検討することとなった。

今回は、小枝先生作成のたたき台の内容検討、鳥取市が5歳児健診時に利用している生活習慣チェックと行動評価を行うSDQ（25項目）の導入可否および内容の検討、健診後のフォローの体制について検討を行った。協議の中で、以下の意見があった。

- ・ 診察項目の「会話」、「単語の定義」、「じゃんけん勝負」、「しりとり」は事前に市町村で確認できれば時間短縮が期待でき、スムーズに実施が可能。またSDQのようなものを加えることができれば、事前情報として健診医は大変役に立つ。
- ・ 健診後の一次指導の項目を追加してはどうか。ペアレントトレーニング、ソーシャルスキルを伸ばすような指導は5歳児健診後にしても良

い。親が意欲的になるような助言的な内容を入れたマニュアルを。

- ・ 5歳児健診の位置付け、目的、何のために実施するのかを明記する。一次指導の場であることを明確にすべき（→県子育て応援課作成）。
- ・ マニュアルは今後、一般の小児科医も使用することも考慮する。
- ・ 親の困ったこと、健診会場で良くあるQ&A、具体的な相談先などの情報を入れる。一次指導がないまま療育機関に紹介されトラブルになるケースがある（→汐田先生作成）。指導に活用できるものの紹介（参考文献など）を入れても良い。
- ・ 保健師や周りのスタッフも参考となるよう、健診医用とスタッフ用とを合わせたようなマニュアルを。
- ・ 健診＝病気を見つける、異常を見つけるではない。気づきの場であり、適正発見の場である。親が安心して帰れるような健診であるべき。そのためには園からの情報も必要。
- ・ 集団の場での様子を理解するためにSDQを保育園・幼稚園にもつけてもらい、家族が付けたものと一緒に健診表に結果が記載されていると分かりやすい。保育園・幼稚園に付けてもらう

ことの意義と同意を5歳児健診案内文に記載する。同意されない場合のみ保健師にその旨を連絡してもらうようにする（連絡がなければ同意したとみなす）。

- ・健診後の事後措置にも触れる。保護者のニーズに合った各市町村の相談窓口があること（県子

ども発達支援課より要望)、5歳児健診は保護者の就学への不安を解消する場であること。

- ・マニュアル作成の際には、小児科医会の先生方の意見も伺う。
- ・次回の小委員会は12月を目処に開催予定。

全国がん登録の届出マニュアルが公開されました

平成28年1月にスタートする「全国がん登録」の実施について、病院等の管理者が、原発性のがんについて、当該病院等の所在地の都道府県知事へ届出にあたり、必要な事項が掲載されています。

ダウンロード版を下記URLよりご覧いただけます。

http://ganjoho.jp/reg_stat/can_reg/national/hospital/index.html